



祝嶺 正献

日本武藝躰道三代宗家

ご挨拶

昨年7月は土石流災害等被災地域近郊にお住まいの関係者もおられ、一年たった今も未だ復旧への道なりに支援を要する皆様へ心よりお見舞いを申し上げます。今年は例年よりもかなり早い梅雨明けを迎え夏の水不足による影響が懸念されますが、感染症対策に万全を期すことでコロナ前の日常を徐々に取り戻しつつあり、この度、山形県朝陽武道館をお借りして第43回全国少年少女躰道優勝大会、並びに、第40回全国高校生躰道優勝大会が無事開催される運びとなりました。オンライン、ライブ配信等を駆使して活動を続けて頂いたこと、子供たちのニューノーマルにご理解を賜り指導環境を整えて下さった関係者の皆様、とりわけ、山形県協会の皆様に心より感謝申し上げます。

親たち世代の幼少期からは想像もつかなかったマスク姿での学校生活、発達したメディアは手のひらサイズの端末然り、オンラインでの授業も卓上のスクリーンやタブレットを見ながら、と、私たちの日常は以前にも増して二次元のモノたちに依存しています。依存度が高い反面、手元のない不安や不便に慣れないと余計に心身へのダメージを受けるようにもなりました。視覚、聴覚に留まらず、やはり手で触れ体を動かし、対面の人間関係に『礼』を示すことの大切さをコロナ禍での閉塞感が教えてくれたように思えます。

続けたいものに出会える事、何らかの理由で続けることが出来なくなったとしてもまた戻ってくる事が出来る場があることは、『自己表現』を助ける最良の環境となります。稽古の場での交流を通じて心身の健康、人との関わり方等、自分にとって大切な『モノ』、『こと』を護り続けるためのスキルが身に付けることができるようになります。世の中が限りなく持続可能な循環型社会への取り組みを目指すようになり、これからの「自」と「他」、「自分」と「社会」、「人」と「自然環境」を巡るモノについて考えたいと思います。リモートで伝えられる二次元上のコンテンツ以上に生の大会会場が尊いのは、直に共有する空間にしかない五官への刺激、響きが伝わるからで、ストレスの発散や情緒の安定を促し取り組みへの持続性を高めるといわれるからです。日々の積み重ねが評価され大会に出場される少年少女、高校生選手の皆さんは立派な大舞台に臨む機に恵まれました。思い通りの『自分を表現』できますよう大会の無事成功をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

令和4年7月